



学校法人志賀学園
認定こども園
平第一幼稚園
令和7年6月30日

先日、梅雨入りが発表され、少しずつ夏が近づいている時期になってきました。6月20日（金）に大國魂神社の宮司さんをお招きしてさくら組の子どもたちと一緒にプール開きを行い、水遊び・プール遊びでの安全祈願をしました。

神社の宮司さんと一緒に神事に参加することで神様の存在や願い事をする大切さなど、安全祈願以外にも子どもたちに感じてもらえるように担任の先生も子どもたちにわかりやすいように事前に説明をして参加してもらいました。

季節ごとの行事について子どもたちに触れてもらい、行事の意味や由来を説明する中で、古来より受け継がれてきている伝統を知るきっかけになってもらえるようこども園としても保育の中で取り組んでいます。ご家庭でも園だよりをきっかけにいただき行事の話をお子さんと一緒に話していただければと思います。

また、6月のクラスだよりでもお知らせさせていただきましたが、水遊びの準備をご家庭でしていただき、暑い日には思いっきり全身を使って遊びを楽しむ子どもたちの姿が見られます。これから水遊びの機会がたくさんありますので、体調や事故等に留意しながら子どもたちと楽しんでいきたいです。

さて、7月の行事で一番に思い浮かぶものは「七夕」と思う方が多いと思います。「七夕」の由来としては、平安時代に中国より宮中行事として日本に伝わりました。平安時代の頃には、桃や梨、なす、うり、大豆などを供えて星を眺めて、里芋の葉に貯まった夜露を「天の川のしずく」と考え、それで墨を溶かし梶の葉に和歌を書いて願い事をしていたそうです。

江戸時代には七夕行事が五節句の1つとなる一般にも広がり、野菜や果物を供えて、詩歌や習い事の上達を願いました。また、梶の葉の代わりに5つの色の短冊に色々な願い事を書いて笹竹に吊るし、星に祈るお祭りと変わってきました。

「なぜ笹に飾るのか？」

七夕飾りをなぜ笹に飾るかというのは定かではないところなのですが、笹には冬場でも青々としていることから生命力が高く邪気を払う植物として昔から大事にされてきました。また、虫などをよける効果もあり、当時の稲作のときには笹を使って虫除けをしていたことや、天に向かってまっすぐ伸びる笹は願い事を空の織姫や彦星に届けてくれると考えられていたようです。

「七夕飾りの種類とその意味」

○紙衣・・・女子の裁縫の腕が上達しますように ○巾着・・・お金が貯まりますように ○投網・・・豊漁になりますように

○屑籠・・・整理、整頓、物を粗末にしないように ○吹き流し・・・織姫のように機織が上手になりますように

○千羽鶴・・・家族が長生きしますように ○短冊・・・願い事が叶い、字が上手になりますように

上記の意味を知り、ご家族で願い事を短冊に込めて、七夕をご家庭でもお楽しみください。

また、もうすぐ夏休みになります。ご家族でお出かけする方も多いと思いますが、お出かけの際にはくれぐれも事故等に注意していただき楽しい夏休みをお過ごしください。

「7・8月の子どもたちの特性」【4歳児 自己主張期】※1期～5期の姿は3・4・5歳児の年齢の中で循環して見られる過程です。

1学期も終わりに近づいてきた7月。この時期になるとさらに子どもたちの成長に変化が現れるようになってきます。

今まで自分なりの自信を持ち、集団の中でお友だちや先生との関係性がわかってきて、「自分の存在を認めてほしい」という気持ちが芽生えて、自分の気持ち（自己）を出して、それに応じてもらうことで、新たな自己を形成していく時期が2期で見られる自己発揮の時期でした。この時期に上記の気持ちが満たされるとここから3期の自己主張期の姿が各所で見られるようになります。

今月は4歳児のクラスでの事例を用いて成長過程をご説明させていただきます。

先日、1人の男の子が「色水ってどうやって作るの？」という一声からすみれ組さんを中心にお外で色水作りが始まりました。園庭に咲いていて散ってしまった花びらを集めたり、先生が自宅から集めてきた花びらを使って、すり鉢や透明のポリ袋に水を入れて揉んでみたりと様々な方法でそれぞれに技法を考えながら色水作りを楽しむ姿が見られました。「どうやって作るの?」、「先生教えてー!」と先生が作る所をじっと観察しながら1人また1人と興味を持った子どもたちが集まり大盛り上がり!すり鉢を初めて使う子もいて、苦戦しながらも回数を重ねることごとに上手にすることができ、花の色もきれいにしみ出る様子に「色出てきたよ!」と嬉しそうにし、周囲のお友だちも嬉しい気持ちを共感していました。

このようにお友だちから刺激を受け、思いを積極的に表出する姿がこの時期に特に多く見られます。また、「思いを積極的に表出する」ということで、他者を意識して、自分を認めてほしい気持ちが強くなり、自分の思いを積極的に表します。時には、自分の知っていることを一方的に話したり、オーバーリアクションで表現したりするなど、自分をアピールして、クラスの中で目立とうとしたり、お友だちとの関わりで自分を誇示したりする姿も見られます。こども園でもこのような成長過程が見られるように自己アピールの場を楽しむ活動を多く取り入れるため、お当番活動だけでなく、日々の保育活動・遊びの中で様々な集団経験ができるよう日々の保育を設定しています。成長過程ごとに見られる子どもたちの「その時期ごとの姿」をぜひ、園だよりを参考に楽しんでみてください。

坂本卓哉

